

「脱ムダ」で市政を変える！ 市政改革を前へ、前へ
小金井市議会議員／情報公開こがねい

週刊 渡辺大三 NEWS



【会派 NEWS】 2021(令和3)年1月4日 週刊 vol.71

【ご意見ご要望はお気軽に】 〒184-0012 小金井市中町3-26-15-301

T 090-3345-6929 F 042-381-5074 watanabedaizou@gmail.com

公式サイト daizou.org (Twitter、facebook には公式サイトからアクセスできます)

2021 年も「脱ムダ改革」に全力

庁舎建設は大幅なコストダウンを

新しい年、2021(令和3)年が始まりました。市民の皆様におかれましては、ご健康で輝かしい新春をお迎えのことと思います。

本年も「週刊渡辺大三 NEWS」「情報公開こがねい NEWS」などを通じて、市政や市議会の動きについての情報公開を前に進めてまいります。

今年は、3月14日告示21日投票の日程で小金井市議会議員選挙が行われます。前回市議選は、投票率が史上初めて40%を切る事態となりました。「選挙に行こう！」と呼びかけることも重要ですが、私は、市政の課題や論点を明確にし、どの議員がどういう判断をしているのかが明らかになることが投票率向上に寄与するものと考えています。そういう観点で、紙面づくりにも工夫をしていきたいと思っております。

2021 年最大の争点は… 庁舎建設のコスト

2021 年の小金井市政の最大の争点は、新型コロナウイルス感染症の影響で、市財政が「崖っぷち」となる中、庁舎建設の「コスト」をいかに削減するかです。

以下は、2020 年 12 月定例議会で実施した一般質問の要旨です。まずご一読ください。

◎質問者(渡辺大三)

市民団体(庁舎と福祉会館の建設を考える)

会)が専門家ととりまとめた対案(市民案)を採用し、(ア)建設費の大幅削減(16 億円の削減)、(イ)陽当たりの良い 3000 m²の広場空間の確保、(ウ)庁舎と同等の免震構造を福祉会館にも採用、の3点を実現したらどうか。

地方自治体の財政運営の大原則は「最少の経費で最大の効果を上げる」ことにある。新型コロナウイルス感染症の影響によって「崖っぷち」となる市財政。緊急に市長と全議員による円卓会議を開催し、大幅コストダウンを基調とした庁舎建設方針の確立を図る必要があるのではないか。

◎答弁者(西岡市長)

大幅な条件の変更はできない。基礎的与条件、設計条件として示したものを見直すということまでは考えられない。円卓会議については、本日は意見として受け止める。

私は、大幅なコストダウンに向けて、市長と全議員による円卓会議の設置を求めましたが、市長は設置するかどうかについて明言を避けました。

市長がこのような態度をとっているのは、市議会が大幅なコストダウンに向けた方向転換を図っていないことに理由があります。

たとえば、12 月定例議会では、複数の市民団体が提出した、庁舎等建設の大幅なコストダウンを求める陳情書が本会議で採決に付されましたが、結果は、すべて不採択でした。

「建設コストダウンを求める」 2 件の陳情書を不採択

「庁舎及び福祉会館建設について、設計を変更し、施工性を大幅に改善させ、建築費の大幅削減を行うことを求める陳情書」及び「庁舎及び福祉会館建設に関して、『コストダウン』『安全性確保』『地域環境の保全』の観点から、設計の抜本的見直しを求める陳情書」の 2 件に関しては、12 月 21 日の本会議で採決に付され、賛成 4 反対 19 で不採択となりました。

採決態度は以下の通りでした。

○ 2 件の陳情に賛成⇒情報公開こがねい(渡辺大三)、共産党(板倉・水上・たゆ)。

× 2 件の陳情に反対⇒自民党信頼(遠藤・湯沢・吹春・清水)、みらいのこがねい(鈴木・村山・岸田・沖浦)、公明党(宮下・紀・渡辺ふき子・小林)、こがおも(白井・水谷)、市民会議(斉藤)、改革連合(篠原)、ネット(田頭)、市民カエル(片山)、緑つながる(坂井)。

*五十嵐議長(自民党信頼)は採決に加わらない。以下同じ。
*「みらいのこがねい」は立憲民主党などで構成。以下同じ。

市長案と市民案の「比較検討を」 陳情書を不採択

10 億円を超える余計なお金がかかる「市長案」に対して、市民団体と専門家が、大幅なコストダウンを可能にする「市民案」をとりまとめました。これに関して、市民団体から「市議会において、新庁舎と(仮称)新福祉会館建設に関し、市長案と市民案の比較検討を求める陳情書」が提出されました。12 月 21 日の本会議での採決結果は、賛成 7 反対 15 退席 1 で不採択でした。

「市民案」は、市役所の担当職員が「目から鱗(うろこ)が落ちた」と感嘆し、議会筋でも「これで問題が解決できる」と高い評価の声も上がった内容でした。数の論理で、「比較検討」すら拒否するのは、理解に苦しみます。「比較検討」すると、「市長案」の欠陥が明らかになってしまうので、逃げ回っているようにしか見えません。

不採択とはなりましたが、市議会の最大会派である自民党信頼の大半の議員が、「比較検討は必要である」との判断を示したことは、今後につながる重要な点だと思います。

採決態度は以下の通りでした。

○ 陳情に賛成⇒情報公開こがねい(渡辺大三)、自民党信頼(遠藤・湯沢・吹春)、共産党(板倉・水上・たゆ)。

× 2 件の陳情に反対⇒みらいのこがねい(鈴木・村山・岸田・沖浦)、公明党(宮下・紀・渡辺ふき子・小林)、こがおも(白井・水谷)、市民会議(斉藤)、改革連合(篠原)、ネット(田頭)、市民カエル(片山)、緑つながる(坂井)。

△ 退席(棄権)⇒自民党信頼(清水)

住民投票求める署名運動で ムダ遣いのない計画に転換を

市長や市議会の多数派が、市民の意向に反して巨額のムダ遣いを生む計画を強行しようとした場合、これに歯止めをかける制度が「住民投票を求める直接請求署名運動」です。小金井市でも過去に何度も実例があり、成果を上げています。

直接請求に必要な署名数は、有権者の 50 分の 1 以上(2%以上)ですので、有権者約 10 万人の小金井市にあっては 2000 筆の有効署名が必要となります。署名期間は 1 か月間です。

西岡市長は、来年度予算への建設費の計上はせず、6 月議会への提出を考えていたようですが、不手際が相次ぎ、6 月議会への提出はできなくなっています。

したがって、都議選終了後、7 月の署名運動というスケジュールが想定されます。

◆渡辺大三略歴◆

1966年5月2日、岩手県水沢市(現:奥州市)生まれ。秋田県横手市、宮城県仙台市、山形県山形市を経て、9歳から小金井市在住。小金井市立本町小学校・小金井市立小金井第一中学校(桜町)、東京都立小金井北高等学校(緑町)、中央大学法学部を卒業。株式会社河北新報社(本社:仙台市)に就職し、新聞記者。衆議院議員秘書を経て、男性最年少の26歳で小金井市議選初当選(以降7期連続当選/最近4回の選挙はいずれも無所属で立候補)。

【現在】小金井市の地域政党「情報公開こがねい」共同代表。東京の地域政党「自由を守る会」幹事長。小金井市商工会参与。貫井北町商工振興会事務局。中町親愛会相談役。中央大学学生会小金井支部副支部長。小金井北高等学校同窓会幹事長。